

令和4年度

シラバス

富山県立小矢部園芸高等学校

令和4年度 シラバス

目 次

教科	科 目	1 年次	2 年次	3 年次
国語	現 代 の 国 語	1		
公 民	公 共	2		
数 学	数 学 I	3		
理 科	科学と人間生活	4		
保 健 体 育	体 育	5		
	保 健	6		
芸 術	音 樂 I	7		
	美 術 I	8		
	書 道 I	9		
外国語	英語コミュニケーションI	10		
家 庭	家 庭 総 合	11		
農 業	農 業 と 環 境	12		
	総 合 実 習	<u>1 3 (1)</u> 野菜		
		<u>1 3 (2)</u> 草花		
		<u>1 3 (3)</u> 造園		
農 業 と 情 報	14			

N O	教 科	科 目 名	単 位 数	必修・選択の別
1	国 語	現代の国語	2	必修
開講年次	選択群	系 列	使 用 教 科 書 ・ 教 材	
1			大修館書店 新編 現代の国語	

目 標

言葉による見方・考え方を働きかせ、言語活動を通して、国語での確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

知識及び技能	思考力、判断力、表現力	学びに向かう力、人間性
実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようとする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

単元・作品名		学習 内 容	到 達 度 目 標
前 期	「変わること」を楽しもう (読む)	・「変わる」ことについて筆者の考えを読み取る。	・文章の内容や構成、展開などを的確に捉え、書き手の意図を解釈して自分の考えを深めることができる。
	ことばの準備体操 (話す)	・早口言葉 自己紹介 倾聴 書写 音読	・発音や聞き方に注意して話したり聞いたりできる。 ・読みやすくわかりやすい文字を書くことができる。 ・発音や速さ、間、強弱を工夫して音読できる。
	絵や写真を説明しよう (書く)	・形、配置、手順などを説明する。	・伝わる説明について考え、わかりやすい説明ができる。
	水の東西 (読む)	・対比の関係に注目し、作者の主張を読み取る。	・具体的な例の働きを理解し、書き手の主張を読み取り、自分の考えを深めることができる。
	本のPOPを作ろう (書く)	・本を選び、表現を工夫してPOPを作る。	・POPの表現の工夫を知り、伝えたいことを明確にして、効果的な紹介文を書くことができる。
	伝わるように話そう (話す)	・内容のまとめり、聞きやすさを意識して話す。	・テーマを決めて、相手に伝えたいことをわかりやすく話すことができる。
後 期	情報の力関係 (読む)	・文字・図形・絵などの効果について考える。	・視点や立場によってものの見方は異なる事を理解し、情報を吟味することについて考えを深めることができる。
	聞き取りのレッスン (話す)	・メッセージを伝える。 ・メモを取る。	・自分にとって必要な情報を意識して、メモを取りながら聞くことができる。
	聞き取ったことをまとめよう (書く)	・インタビューする。 ・内容をまとめる。	・聞き取った情報を整理したり編集したりし、わかりやすく効果的な文章を書く。
	ことばの使い分け (話す)	・話し言葉・書き言葉の学習	・場面に応じた言葉遣いを理解し、適切に使い分けることができる。 ・敬語の正しい使い方を理解できる。
	依頼状 (書く)	・依頼内容を形式に沿って書く。	・内容を明確に伝え、相手に了承してもらえるような依頼状を書くことができる。
	自分の考えを作るために (読む)	・具体例の役割に注意しながら、筆者の主張を読み取る。	・筆者の主張を踏まえて、自分の考えを深める。

取得可能な検定や資格

漢字検定 硬筆書写検定

N O	教 科	科 目 名	単 位 数	必修・選択の別
2	公 民	公 共	2 / 4 (1・2年次継続履修)	必履修
開講年次	選択群	系 列	使 用 教 科 書 ・ 教 材	
1	なし	なし	公共 (実教出版) 高校生のためのふるさと富山 (富山県教育委員会)	

目 標

広い視野に立って、民主主義の本質に関する理解を深め、現代における政治、経済、国際関係などについて客観的に理解し、それらに関する諸課題について主体的に考え、公正な判断力、良識ある公民として必要な能力と態度を身に付ける。

知 識 及 び 技 能	思 考 力 、 判 断 力 、 表 現 力	学 び に 向 か う 力 、 人 間 性
現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための概念や理論について理解するとともに、情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。	現実社会の諸課題の解決に向けて、基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、議論する力を養う。	現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚を深める。

單 元・作品名	学習 内 容	到 達 度 目 標	
前 期	公共の扉	社会を作る私たち 人間としてよく生きる 他社と共に生きる 民主社会の倫理 民主国家における原理	<ul style="list-style-type: none"> ・青年期が人生においてどのような意味を持つか理解できる。 ・社会参加や仕事の意義が何であるか見つけることができる。 ・日本人の伝統的な自然観や倫理観はどのように形成されたものか理解し、立山信仰を通して仏教の広がりを知る。 ・ギリシア人の理想的な生き方を理解できる。 ・世界の宗教の教えを知り、人間の生き方との関わりについて理解できる。 ・人間に於て自由がどのような意味を持つのか考察できる。 ・公正な社会とはどのような社会なのか考察できる。 ・人間の尊厳と平等とは何か、差別や偏見をなくすためにどのようにすればよいか考察できる。 ・政治とはなにか考察し、民主主義の形成過程について理解できる。 ・法の支配とはどのようなことなのか理解できる。 ・世界の主な政治制度について、イギリス・アメリカ・中国の違いから理解できる。
	よりよい社会の形成に参加する私たち 現代の民主政治と日本国憲	日本国憲法の 基本的性格	<ul style="list-style-type: none"> ・日本国憲法の成立過程を理解し、日本国憲法のもつ意味や、三大原理、大日本帝国憲法との違いに理解できる。 ・自由権・平等権・社会権・参政権・請求権などの本質を理解し、自分の考えを持っている。 ・新しい人権について、理解を深め、権利と義務、「公共の福祉」などについて理解を深めている。 ・自衛隊・憲法改正問題など様々な論点について関心を深めている。 ・国会、内閣、裁判所などの政治機関とそれぞれの役割について、意欲的に理解し、主権者としての政治に対する関心を深めている。 ・国会、内閣、裁判所に関する題材をメディアを通して収集できる。 ・国会や内閣の権限や司法制度の基本を理解し、司法制度改革についても考察できる。 ・地方自治の本旨を理解し、国と地方の関係を地方分権をもとに考察できる。 ・議会政治における政党の役割について把握できる。 ・日本の選挙制度の特徴を理解できる。 ・世論の持つ力やマスメディアや市民運動の持つ意義を考察できる。
		日本 の 政 治 機 構 と 政 治 参 加	

取得可能な検定や資格

なし

N O	教 科	科 目 名	単 位 数	必修・選択の別
3	数 学	数 学 I	3	必履修
開講年次	選択群	系 列	使 用 教 科 書 · 教 材	
1	なし	なし	・高校数学 I (実教出版) ・ステップノート数学 I 新課程版(実教出版)	

目 標

- ・数と式、2次関数、三角比について理解し、基礎的な知識を身に付ける。
- ・数と式、2次関数、三角比問題を表現・処理する技能を身に付ける。
- ・数と式、2次関数、三角比に関して身に付けた知識や技能を的確に活用する能力を伸ばし、数学的な見方や考え方の良さを知ることができる。

知 識 及 び 技 能	思 考 力 、 判 斷 力 、 表 現 力	学びに向かう力、人間性
数と式、二次関数及び図形と計量についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

單 元・作品名		学習 内 容	到 達 度 目 標
前 期	ウォームアップ	①文字式のきまり	・中学まで習ってきた計算規則や方程式の解き方を確認し、正しく計算できるようとする。
	1章 数と式	②整式	・文字式の計算規則を確認し、整式、次数、係数、定数項などの意味を知る。整式の加減乗や指数の計算方法を知り、公式を利用して2次式や3次式の展開や因数分解ができる。
	1節 整式	③整式の加法・減法 ④整式の乗法 ⑤乗法公式による展開 ⑥因数分解	・根号で表される数どうしの加減乗の計算や分母の有理化ができる。
	2節 実数	①平方根とその計算 ②実数	・数の体系について理解を深める。
	3節 方程式と不等式	①1次方程式 ②不等式 ③不等式の性質 ④1次不等式 ⑤連立不等式 ⑥不等式の応用	・方程式、不等式、解などの意味を知り、解いたり、数直線に表したりすることができる。 ・連立不等式や不等式の応用問題を解くことができる。
	2章 2次関数	①1次関数とそのグラフ ②2次関数とそのグラフ	・1次関数や2次関数とそれらのグラフの形が分かり、グラフの平行移動ができる。また、平方完成を利用して、グラフをかくことができる。
後 期	1節 関数とグラフ		
	2節 2次関数の値の変化	①2次関数の最大値・最小値 ②2次関数のグラフと2次方程式 ③2次関数のグラフと2次不等式 ④三角形 ⑤三角比	・グラフを利用して2次関数の最大値・最小値を求めることができる。 ・2次関数のグラフと2次方程式の解との関係や2次不等式の解との関係について理解できる。
	3章 三角比	③三角比の利用 ④三角比の相互関係	・三角形の相似や三平方の定理を利用し、辺の長さを求めることができる。
	1節 三角比	①三角比の拡張 ②三角形の面積	・正接、正弦、余弦を知り、三角比を求める、三角定規の三角比が分かる、相互関係を知るなどができる。
	2節 三角比の応用	③正弦定理 ④余弦定理 ⑤正弦定理と余弦定理の利用	・鋭角と比較しながら、鈍角の三角比を求めることができる。 ・三角形の面積の公式、正弦定理、余弦定理を知り、面積、辺の長さ、角度などを求める問題を解くことができる。

取得可能な検定や資格

- ・実用数学技能検定

※準2級を取得すると1単位の増加単位として認定される（数学Iを修得した場合に限る）

N O	教 科	科 目 名	単 位 数	必修・選択の別
4	理 科	科学と人間生活	2	必修
開講年次	選択群	系 列	使 用 教 科 書 ・ 教 材	
1	なし	なし	実教出版	科学と人間生活

目 標

自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

知識及び技能	思考力、判断力、表現力	学びに向かう力、人間性
自然と人間生活との関わり及び科学技術と人間生活との関わりについての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようする。	観察、実験などを行い、人間生活と関連付けて科学的に探究する力を養う。	自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養うとともに、科学に対する興味・関心を高める。

単元・作品名	学習内容	到達度目標
--------	------	-------

前 期	科学と技術の発展	・科学と技術の始まり ・海 ・土	科学技術の発展について、科学技術の発展が今日の人間生活に対してどのように貢献してきたかについて、および科学技術の発展と人間生活との関わりについて科学的に考察し表現する。
	物質の科学	・材料とその際利用 ・食品と医療	身近な材料に関して、金属やプラスチックの種類、性質及び用途と資源の再利用について、日常生活と関連付けて理解する。 衣料と食品に関して、身近な衣料材料の性質や用途、食品中の主な成分の性質について、日常生活と関連付けて理解する。
	生命の科学	・ヒトの生命現象 ・微生物とその利用	ヒトの生命現象に関して、ヒトの生命現象を人間生活と関連付けて理解する。 微生物にして、微生物の働きを人間生活と関連付けて理解する。
	光や熱の化学	・熱の性質とその利用 ・光の性質とその利用	熱に関して、熱の性質、エネルギーの変換と保存及び有効利用について、日常生活と関連付けて理解する。 光に関して、光を中心とした電磁波の性質とその利用について、日常生活と関連付けて理解する。
	宇宙や地球の科学	・太陽と地球 ・身近な自然景観と自然災害	天体に関して、太陽などの身近に見られる天体の運動や太陽の放射エネルギーについて、人間生活と関連付けて理解する。 自然景観と自然災害に関して、身近な自然景観の成り立ちと自然災害について、人間生活と関連付けて理解する。
後 期	これからの科学と人間生活	・これからの科学・技術と人間	課題を設定し探究することで、これからの科学と人間生活との関わり方について認識を深める。また、これからの科学と人間生活との関わり方について科学的に考察し表現する。

取得可能な検定や資格

なし

N O	教 科	科 目 名	单 位 数	必修・選択の別
5	保健体育	体育	3 / 7 1 ~ 3 年次まで継続履修	必履修
開講年次	選択群	系 列	使 用 教 科 書 ・ 教 材	
1	なし	なし	現代高等保健体育（大修館）	

目 標

体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

知識及び技能	思考力、判断力、表現力	学びに向かう力、人間性
運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。	運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。

単元・作品名		学習 内 容	到 達 度 目 標
前 期	集団行動	姿勢、方向転換	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の体への関心と体つくりへの取り組みができる。 ・実践を通して陸上競技の楽しさにふれている。 ・自己の技術的・体力的課題を知り、その解決を図りながら記録の向上を目指している。 ・サッカーの特性と戦術を理解し、ゲームの攻防を楽しむことができる。チーム全員で協力し、楽しくバスゲームができる。 ・運動との比較から文化としてのスポーツの特徴を説明できる。 ・運動の特性、効果的な練習法を理解し、知識が身に付いている。 ・オリンピズムとオリンピックの価値について説明できる。
	体つくり運動	体ほぐしの運動	
	スポーツテスト	各種測定	
	陸上競技	50m、100m走	
	・短距離走、リレー	バトンパス、ハーダル走	
	球技	基本技術（バス、ドリブル）	
後 期	・サッカー	戦術練習、簡易ゲーム	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な技術を身に付けています。 ・個人やチームの能力に応じて作戦を立て、持っている技能を最大限に活用してゲームができる。 ・音楽に合わせて楽しく体を動かすことができる。 ・基本的な技術を身につけ、相手側のコートの空いた場所をめぐる攻防ができる。 ・卓球の特徴を理解し、正しくボールを打つことができる。簡易ゲームでラリーを楽しむことができる。 ・バドミントンの特徴を理解し、正しくシャトルを打つことができる。簡易ゲームでラリーを楽しむことができる。 ・スポーツが経済活動でどのように重要な役割を果たしているかを説明できる。 ・スポーツにかかる業種について例をあげて説明できる。 ・スポーツにおける環境問題について例をあげて説明できる。
	球技	基本技術（打つ、捕える、投げる、走る）	
	・ソフトボール	エアロビクスダンス	
	ダンス	現代的リズムのダンス	
	球技	フレッシュテニス（フォア、バック、ロブ）	
	・テニス	基本技術、サーブ、簡易ゲーム（フォア、バック、ドライブ）	
期	・卓球	基本技術（ドライブ、ハイクリア、サーブ、ヘアピン、スマッシュ）	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツが経済活動でどのように重要な役割を果たしているかを説明できる。 ・スポーツにかかる業種について例をあげて説明できる。 ・スポーツにおける環境問題について例をあげて説明できる。
	・バドミントン	基本技術（ドライブ、ハイクリア、サーブ、ヘアピン、スマッシュ）	
	体育理論	・スポーツが経済に及ぼす効果	
		・スポーツの高潔さとドーピング	
		・スポーツと環境	

取得可能な検定や資格

なし

N O	教 科	科 目 名	単 位 数	必修・選択の別
6	保健体育	保健	1 / 2 1 ~ 2 年次まで継続履修	必履修
開講年次	選択群	系 列	使 用 教 科 書 ・ 教 材	
1	なし	なし	現代高等保健体育（大修館）	

目 標

保健の見方・考え方を働きかせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を育成する。

知識及び技能	思考力、判断力、表現力	学びに向かう力、人間性
個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

単元・作品名		学習内容	到達度目標
前 期	<ul style="list-style-type: none"> ○現代社会と健康 <ul style="list-style-type: none"> ・健康の考え方 ・健康の保持増進と病気の予防 ・精神の健康 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康の考え方と成り立ち ・私たちの健康のすがた ・生活習慣病の予防と回復 ・がんの原因と予防 ・がんの治療と回復 ・運動と健康 ・食事と健康 ・休養・睡眠と健康 ・喫煙と健康 ・飲酒と健康 ・薬物乱用と健康 ・精神疾患の特徴 ・精神疾患の予防 ・精神疾患からの回復 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康水準向上の背景を理解し、これからの健康問題について興味関心を持っている。 ・がんの種類や原因について説明できる。 ・生活習慣病の因果関係（食事・運動・喫煙・飲酒との関連）を知り、その予防方法を実践することができる。 ・薬物乱用は、心身の健康などに深刻な影響をあたえることを理解している。 ・精神疾患の例をあげ、発病の要因とおもな症状について説明できる。
後 期	<ul style="list-style-type: none"> ○安全な社会生活 <ul style="list-style-type: none"> ・交通安全 ・応急手当 	<ul style="list-style-type: none"> ・現代の感染症 ・感染症の予防 ・性感染症・エイズとその予防 ・健康に関する意思決定・行動選択 ・健康に関する環境づくり ・事故の現状と発生要因 ・安全な社会の形成 ・交通における安全 ・応急手当の意義とその基本 ・日常的な応急手当 ・心肺蘇生法 	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症をとりまく状況の変化を知り、その予防方法を実践することができる。 ・人間の欲求と適応機制、精神と身体の関連について理解している。 ・欲求やストレスに対する適切な対処方法を知り、自己実現を図ることが重要であることを理解している。 ・運転者には、資質と責任が求められることを理解している。 ・事故の実態と被害の実態について説明できる。 ・安全のために必要な個人の行動について例をあげて説明できる。 ・交通事故における責任を3つに分けて説明できる。 ・応急手当の意義について説明できる。 ・心肺蘇生法などの正しい応急手当ができる。

取得可能な検定や資格

なし

N O	教 科	科 目 名	単 位 数	必修・選択の別
7	芸術	音楽 I	2	必修
開講年次	選択群	系 列	使 用 教 科 書 ・ 教 材	
1	音楽 I 美術 I 書道 I	なし	ON! 1 (音楽之友社)	

目 標

音楽の幅広い活動を通して、音楽の見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を育成する。

知識及び技能	思考力、判断力、表現力	学びに向かう力、人間性
表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、自己のイメージをもって歌唱表現を創意工夫する。	創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付ける。	鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら、自分や社会にとっての音楽の意味や価値について考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴くことができる。

単元・作品名		学習 内 容	到 達 度 目 標
前 期	歌唱 ～身近な音楽～	・校歌 ・翼をください ・花は咲く ・少年時代 ・この道 ・A Whole New World ・Caro mio ben ・Heidenröselein	・声を合わせて歌うことの楽しさを味わうことができる。 ・歌詞の内容を理解し、表現を工夫して歌うことができる。 ・曲種に応じた歌い方を工夫することができる。 ・英語、イタリア語、ドイツ語に触れ、原語での歌唱の良さを味わうことができる。
	器楽	・ギター	・ギターの基本的な奏法を理解し、奏法を意識して演奏することができる。
	楽典	・音符・休符の長さ ・音楽用語	・音符・休符の長さや基本的な音楽用語や意味を理解することができる。
	西洋の音楽	・ベートーヴェン 交響曲第9番「合唱付き」より 「An die Freude」	・西洋音楽に親しむと共に作曲家や作品の時代背景について関心を持つことができる。
後 期	日本の伝統音楽	・こきりこ ・谷茶前	・歌詞の意味や曲想について理解し、表現を工夫して歌うことができる。 ・各地域の民謡への理解を深め、それにふさわしい歌い方や間の取り方、楽器の演奏を工夫することができる。
	ミュージカルの世界	・「レ・ミゼラブル」	・ミュージカルの特徴を理解し、さまざまな分野の芸術に理解を深める。 ・物語の情景や歌詞の内容にふさわしい歌唱表現を工夫することができる。
	器楽アンサンブル	・ハンドベル	・様々な楽器の特性を理解し、表現を工夫することができる。 ・各パートの響きを感じ取りながら、合わせて演奏することができる。

取得可能な検定や資格

N O	教 科	科 目 名	単 位 数	必修・選択の別
8	芸 術	美術 I	2	選択必履修
開講年次	選択群	系 列	使 用 教 科 書 ・ 教 材	
1	美術 I	なし	光村図書 ・ 美術 1	

目 標

美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

知識及び技能

対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようとする。

思考力、判断力、表現力

造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようとする。

学びに向かう力、人間性

主体的に美術に幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

單元・作品名		学習 内 容	到 達 度 目 標
前 期	(絵画) 未来予想図 「よく観察して描こう」	名作を基にして、時間が経過した内容を想像して描く。 ・知識や技能について造形的な視点で実践を通して高める。	・よく見て描くことの大切さを実感し、着色について、混色や重ね塗りなどの工夫ができる。 ・常に画面全体を捉えながら、細部を描くことができる。 ・主体的な発想を基にして、主題を生成し独創的な表現内容を構想することができる。
	(彫刻・工芸) 仮面の制作	生活の場で生かせる美術品について思考し、表現する。 ・塑造的な表現	・美術の役割等について理解を深め、主体的に創造的な造形表現の構想を練ることができる。 ・材料や技法の特性を理解して、表現方法を工夫することができる。
後 期	(デザイン) 切り絵の制作	生活の場で生かせる美術品について思考し、表現する。 ・単純化した図案	・美術の役割等について理解を深め、主体的に創造的な造形表現の構想を練ることができる。 ・材料や技法の特性を理解して、表現方法を工夫することができる。
	(映像メディア表現) ストップモーションアニメーションの制作	アニメーションの基礎 ・動画の原理	・アニメーションの特質を生かし、ストーリー、構図、動き等を創意工夫して効果的に表現できる。
	(鑑賞) 日月山水図屏風	多様性や個性を認め合う。	・造形を豊かに捉える多様な視点で見たり感じたりできる力を深める。 ・他者の見方や感じ方などから、多様性を認め、自分の中に新しい意味や価値を作り出すことができる。

取得可能な検定や資格

なし

N O	教 科	科 目 名	単 位 数	必修・選択の別
9	芸 術	書道 I	2	選択必修
開講年次	選択群	系 列	使 用 教 科 書 ・ 教 材	
1			光村図書 書 I	

目 標

書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

知識及び技能	思考力、判断力、表現力	学びに向かう力、人間性
書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。	書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようになる。	主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

単元・作品名	学習内容	到達度目標
前 期	書道で学習すること	・書道の三分野を確認し、書写と書道の違いを確認する。
	①漢字の書の学習	・書体の変遷、書の学習法、拓本に関する知識の理解を図る。
	楷書の学習	・様々な古典を鑑賞し、そのよさや美しさ、書風を直観的に捉え味わう。
	・九成宮醴泉銘	・それぞれの古典の特徴と用筆・運筆を理解し、臨書する。
	・孔子廟堂碑	
	・雁塔聖教序	
	・顏氏家廟碑	
	・牛欄造像記	
	行書の学習	
	・蘭亭序	
	・風信帖	
後 期	②篆刻と落款	・書作品に押すための雅印を制作する。
	③仮名の書の学習	・我が国独自の仮名の書の成立過程を学び、字源について理解する。
	・仮名の成立	・仮名の基本的な筆使い、平安時代の代表的な古筆を臨書する。
	・仮名の用具・用材	・自分の好きな言葉や語句で、学習した古典の表情を生かし紙面構成を工夫して創作する。
	・仮名の基本的な筆使い	
	・平仮名の単体	
	・連綿	
	・高野切第三種	
	・散らし書き	
	④漢字仮名交じりの書の学習	
後 期	・古典を生かした表現	・漢字仮名交じりの書の変遷について理解することができた。
	・漢字と仮名の調和	・古典の表情を生かして、漢字と仮名を調和させることができた。
	・紙面構成、用具・用材の工夫	・文字の大きさや配列など、紙面の構成を工夫することで表現に変化をつけられることを理解し、意図に合った表現をすることができた。
	⑤硬筆	・日常生活で使う文字を正しく整えて書くよう気を付けて練習することができた。

取得可能な検定や資格

N	O	教 科	科 目 名	単 位 数	必修・選択の別		
10	外 国 語	英語コミュニケーション I		2 / 4 (2年次まで継続履修)	必履修		
開講年次	選択群	系 列	使 用 教 科 書	・ 教 材			
1	な し	な し	VISTA English Communication I (三省堂)				
目標							
外国語によるコミュニケーションにおける見方、考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれらを結びつけた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり、適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。							
知識及び技能	思考力、表現力、判断力	学びに向かう力、人間性					
・基礎的な外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働き等の理解を深める。 ・これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況に応じて適切に活用できる技能を身につけるようにする。	・コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの要点や概要を、的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。	・外国語の背景にある文化に対する理解を深め、相手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。					
単 元 ・ 項 目	学 習 内 容	到 達 度	目 標				
○ 前 期	Get Ready! 1~3 英文法基礎 Lesson1 Colors of Spring Lesson2 Dick Bruna Lesson3 Interesting Sports	○アルファベット ○辞書の使い方 ○英語での指示 ○英文法の基礎 ○代名詞 ○動詞 ○国によって異なる春のイメージカラーの相違 ○動詞 ○Dick Bruna 氏について ○be 動詞、一般動詞の過去形 ○面白いスポーツとは ○進行形	・アルファベットの大文字、小文字を正しく書くことができる。 ・アルファベットの音を正しく聞き取ることができる。 ・語句を辞書を使って意味や品詞を調べることができるようになる。 ・調べた語句の発音ができるようになる。 ・授業中の英語での指示を理解できるようになる。 ・主語・動詞・形容詞・副詞・前置詞・冠詞・目的語とはどのようなものかを理解できる。 ・be-動詞を理解し、正しく使うことができる。 ・人称、三单現の s, es について理解し、正しく使うことができる。 ・自分の持つ春のイメージカラーを英語で話すことができる。 ・be-動詞、一般動詞を使った文の形を理解し、これらを使い、疑問文、否定文が作れるようになる。 ・Dick Bruna 氏の代表作品や絵の特徴等を知り、それについて自分の好みや意見を話すことができる。 ・過去の出来事について、過去形を使い、正確に話すこと、書くことができる。 ・自分が挑戦してみたいスポーツについて話すことができる。 ・動詞を現在分詞の形に変形することができる。	・			
○ 後 期	Lesson3 Lesson4 Pictograms Lesson 5 We Are Part Of Nature	○進行形 ○pictogram について ○助動詞 ○動名詞 ○岩合氏の動物と自然への思い ○不定詞 ○5 文型	・現在と過去の状況を現在・過去進行形を使い言語で表現できる。 ・pictogram が国際社会で果たす重要性な役割を知る。 ・can will の使い方を理解し（肯定文・疑問文・否定文）を作ることができる。 ・助動詞を使い、自分の意思や行動を話して伝えることができる。 ・動名詞の使い方を理解し、自分の趣味や行動を表現することができる。 ・岩合氏の写真から、動物だけでなく自然に対しての思いを感じることができる。 ・英文を第 1 ~ 5 文型のどの型に属するのかを、正しく見極め分類する事ができる。 ・不定詞の種類と使い方を理解し、これを使用し、自分の意思や行動を言語で表現することができる。	・			
取得可能な検定や資格							
• 実用英語技能検定 ※ 3級を取得すると 1 単位、準 2 級を取得すると 2 単位の増加単位として認定される（英語コミュニケーション I を修得した場合に限る。） より高い級を取得した場合、認定単位数の差を増加単位として認定する。							

N O	教 科	科 目 名	单 位 数	必修・選択の別
11	家 庭	家庭総合	2 / 4 (2年次まで継続履修)	必履修
開講年次	選択群	系 列	使 用 教 科 書 ・ 教 材	
1	な し	な し	教科書 家庭総合(実教出版) 副教材 2022生活学Navi 資料+成分表(実教出版)	

目標

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

知識及び技能	思考力、表現力、判断力	学びに向かう力、人間性
人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な科学的な理解を図るとともに、それらに係る技能を体験的・総合的に身につけるようにする。	家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して生活の課題を解決する力を養う。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を養う。

单 元 ・ 项 目	学 习 内 容	到 達 度 目 标
前 期	生活をつくる 「食生活をつくる」 実践活動 「ホームプロジェクト」	<ul style="list-style-type: none"> ・人と食物のかかわり ・私たちの食生活 ・栄養と食品のかかわり ・食事の計画と調理 ・食品の選び方と安全 ・食事の計画と調理 <ul style="list-style-type: none"> ・日本の食文化の形成と特徴についてわかる。 ・各ライフステージの食生活の特徴を理解し、生涯を見通した食生活の管理運営ができるようになる。 ・栄養・食品・調理・衛生について科学的に理解できる。 ・食生活に关心をもち、調理実習を通して食生活の自立に必要な知識と技術を習得している。 ・食生活にかかわる情報を適切に判断し、環境に配慮した食生活を主体的に営むことができる。 ・バランスのとれた食事の献立をたてることができる。 <ul style="list-style-type: none"> ・生活に关心をもち、生活課題を見つけ解決できる。 ・実践内容をレポートや発表をとおして説明できる。
後 期	人とかかわって生きる 「自分らしい生き方と家族」 「高齢者とかかわる」 「社会とかかわる」	<ul style="list-style-type: none"> ・自立した生き方、共に生きる人生 ・共に生きる家族 ・家族に関する法律 ・私たちの生活を支える労働と生活時間 <ul style="list-style-type: none"> ・高齢社会に生きる私たちの暮らし ・高齢者を知る ・高齢者の自立のためにできること ・介助体験 <ul style="list-style-type: none"> ・支えあう暮らしとは <ul style="list-style-type: none"> ・各ライフステージの特徴と課題を理解し、自分らしく生きることと共に生きることについて考えている。 ・家族の機能と家族関係、家族と法律、家庭生活と福祉などについて理解している。 ・仕事と生活の調和や、家族の一員として役割を果たし、男女が協力して家庭生活を営む重要性についてわかる。 <ul style="list-style-type: none"> ・高齢社会の状況及び福祉などについて理解している。 ・高齢者の心身の特徴や高齢者の生活の課題や家族、地域及び社会の果たす役割について認識している。 ・高齢者の自立生活を支えるための支援の方法や高齢者とかかわることの重要性を理解している。 ・介助体験を通して、介護で大切なことが何かがわかる。 <ul style="list-style-type: none"> ・社会保障制度のしくみと理念を理解している。
	消費者として自立する 「消費行動を考える」 「経済的に自立する」	<ul style="list-style-type: none"> ・社会の変化と消費生活 ・消費者の権利と責任 ・経済のしくみを知る ・生活設計 <ul style="list-style-type: none"> ・流通や販売方法が複雑化・多様化する中で、財・サービスを購入する際に、生活情報を適切に判断し活用できる。 ・消費者問題や消費者の権利と果たす役割がわかる。 ・生涯を見通した家計管理の在り方や不測の事態に備えた経済上のリスク管理について考えることができる。

取得可能な検定や資格

なし

N O	教 科	科 目 名	単 位 数	必修・選択の別
12	農 業	農業と環境	4	必履修
開講年次	選択群	系 列	使 用 教 科 書 ・ 教 材	
1	な し	な し	農業と環境 (実教出版)	

目 標

農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、農業の各分野で活用する基礎的な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

知識及び技能	思考力、判断力、表現力	学びに向かう力、人間性
農業と環境について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	農業と環境に関する課題を見出し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。	農業と環境について基礎的な知識と技術が農業の各分野で活用できるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

単元・作品名	学習 内 容	到 達 度 目 標	
前 期	1トウモロコシの栽培 ・栽培計画 ・たねまき ・たねまき後の管理 ・収穫 ・プロジェクト学習	・トウモロコシの一生 ・品種とその選択 ・たねまきの準備 ・たねまきの適期 ・幼苗の生育 ・耕起整地の方法 ・畑の準備 ・追肥、中耕、土寄せ ・病害虫防除 ・開花、結実 ・収穫 ・トウモロコシの生育や収穫について記録や測定を行う	・トウモロコシの一生と主な管理について把握している。 ・良い種子の条件について理解している。 ・たねまきの準備手順ができる。 ・葉、根の生長を観察することができる。 ・うねの作り方と施肥について理解している。 ・植え付け方法を理解している。 ・追肥の役割と時期について理解している。 ・中耕・土寄せの効果について理解することができる。 ・病害虫の種類について理解できる。 ・受粉受精のしくみについて理解している。 ・収穫の適期を判断できる。 ・栽培の記録ができる。 ・生育調査ができる。
	2学校農業クラブ	・学校農業クラブの目標 ・組織と活動	・農業高校の学習の中で農業クラブが果たす役割を理解している。
	3ダイコンの栽培 ・たねまき ・育苗（栽培） ・プロジェクト学習	・ダイコンの一生 ・たねまき ・畑準備と定植 ・栽培管理 ・根部の発育 ・収穫 ・ダイコン栽培の記録生育測定	・ダイコンの一生と主な管理作業について理解している。 ・たねまきの方法とたねまきの時期について考えることができる。 ・種子と発芽について理解することができる。 ・肥料の与え方、中耕、除草を確実に実施できる。 ・初期生育と管理について把握している。 ・根の肥大のしくみについて理解している。 ・ダイコンに寄生する病害虫と生理障害について理解している。 ・生育調査ができる。
	4プロジェクト学習のまとめ	・トウモロコシやダイコンの生育調査結果をまとめる	・調査結果からわかるることを推測できる。
	5日本の農業	・日本の農業と環境	・農業と自然の関わりを理解できる。 ・農業と環境における課題について理解している ・これから求められる農業について理解している。

取得可能な検定や資格

なし

No.	教科	科目名	単位数	必修・選択の別
13 (1)	農業	総合実習	3/9 (3年次までの継続履修)	必履修
開講年次	選択群	系列	使用教科書・教材	
1	なし	4分野ローテーション(野菜)	総合実習テキスト	

目標

- 農業の基礎・基本について農場実習を通して学び、知識と技術を身に付ける。
- 2、3年次の系列選択に向けて、それぞれの系列（草花、野菜、造園）に関する知識と技術を身に付ける。
- 野菜の特性や栽培に適した環境について学習し、良質で多くの収量を上げることが出来るようになる。

知識及び技能	思考力、判断力、表現力	学びに向かう力、人間性
農業を総合的に捉え体系的系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	農業に関する総合的な課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。	農業の総合的な経営や管理につながる知識や技術が身に付くよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協動的に取り組む態度を養う。

単元・作品名		学習内容	到達度目標
前期	・春野菜の育苗	・育苗 ・栽培用具	<ul style="list-style-type: none"> ナス、トマトなどの春野菜の育苗の目的を理解し、かん水などの管理をすることができる。 鉢上げ鉢替えを確実に行い、その必要性を把握している。 栽培用具について知り、安全に正しく扱うことができる。
	・果菜類の栽培	・生育の特性と管理 ・収穫と調整	<ul style="list-style-type: none"> 半促成キュウリなど果菜類の生育特性を理解し、生育に応じた栽培管理ができる。 果菜類の収穫や、販売のための調整ができる。
	・葉菜類の栽培	・生育の特性と管理 ・収穫と調整	<ul style="list-style-type: none"> キャベツなど葉菜類の特性を理解し、たねまきや育苗管理ができる。 定植方法を理解し、確実に定植することができる。 生育状況に応じた栽培管理ができる。 追肥や除草、薬剤散布を適時にできる。
	・秋野菜の育苗 ○特別実習 当番実習	・種まき ・育苗管理と定植 ・病害虫防除	<ul style="list-style-type: none"> 秋野菜の種まきの準備や種まきができる。 育苗管理及び定植ができる。 病害虫の防除の方法を理解することができる。
後期	秋野菜の栽培 ・葉菜類 ・根菜類	春野菜の育苗 ・果菜類 ・肥料 ・収穫、調整、販売	<ul style="list-style-type: none"> ハクサイ、ダイコンなどの秋野菜の定植後の管理としての中耕、追肥、除草、病害虫防除など、それぞれの目的と方法を理解し、実施できる。
	春野菜の育苗 ・果菜類	・育苗 ・被覆資材 ・つぎ木	<ul style="list-style-type: none"> よい苗の条件を学習し、苗の良否が生育や収量を大きく左右することを理解している。 春野菜の種まきと育苗管理ができる。 育苗に利用する被覆資材の種類と特徴を理解している。 ナスなどのつぎ木の目的を理解できる。 つぎ木の方法を理解し、つぎ木やつぎ木後の管理ができる。 農産物即売会を体験し、販売や出荷方法を理解している。

取得可能な検定や資格

- 日本農業技術検定 3級

N O	教 科	科 目 名	单 位 数	必修・選択の別
13 (2)	農 業	総合実習	3 / 9 (3年次までの継 続 履修)	必履修
開講年次	選択群	系 列	使 用 教 科 書 ・ 教 材	
1	な し	4分野ローテーション(草花)	総合実習テキスト	

目 標

- 農業の基礎・基本を農場実習を通して学び、知識と技術を身に付ける。
- 2、3年次の系列選択に向け、各系列（草花、野菜、造園）に関する知識と技能を身に付ける。
- 農場での総合的な実習を通じて、作業の順序、組合せとその管理および技術の実践的な役割を体験的に理解し、草花の生育環境、生産、出荷などに関する実際的な技術を身に付ける。

知 識 及 び 技 能	思 考 力 、 判 断 力 、 表 現 力	学 び に 向 か う 力 、 人 間 性
農業を総合的に捉え体系的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	農業に関する総合的な課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。	農業の総合的な経営や管理につながる知識や技術が身に付くよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協動的に取り組む態度を養う。

單 元・作品名		学習内 容	到達度 目標
前 期	花壇用草花の生産と管理 ○特別実習 当番実習	春から夏における草花管理 ・施肥 ・苗の移動・手入れ ・出荷準備 ・さし木・は種 ・かん水 (管理する草花) サルビア、ケイトウ、マリーゴールド、アゲラタム、メランボジウム、ベゴニア、ガザニア、ペチュニア、インパチエンス、ゼラニウム、エキザカム、観賞用トウガラシ、シクラメン、カラソコエ、クンシラン	<ul style="list-style-type: none"> 種子の性質や大きさに合わせたは種、管理ができる。 時期に合わせ、適期にさし木、鉢上げ、かん水、施肥等の管理ができる。 除草、摘芯、わい化処理等の意義を理解し、適切に作業できる。 病害虫の特徴を理解し、安全に防除できる。 生産品を客観的に評価し、付加価値を高めることを考えて出荷準備ができる。
後 期	鉢花の生産と管理 ○特別実習 当番実習	秋から冬における草花管理 ・栽培用土作り 土詰め は種 ・販売準備 ・出荷準備 ・かん水 (管理する草花) ハボタン、シネラリア、ブルムラ、ガザニア、シクラメン、ベゴニア、パンジー、サルビア、アゲラタム、マリーゴールド、インパチエンス、コリウス、観賞用トウガラシ、エキザカム、メランボジウム	<ul style="list-style-type: none"> 種子の性質や大きさに合わせたは種、管理ができる。 時期に合わせ、適期に鉢上げ、かん水、施肥等の管理ができる。 除草、摘芯、わい化処理、などの意義を理解し、適切に作業できる。 病害虫の特徴を理解し、安全に防除できる。 生産品を客観的に評価し、付加価値を高めることを考えて出荷準備ができる。

取得可能な検定や資格

- 日本農業技術検定 3級

N O	教 科	科 目 名	单 位 数	必修・選択の別	
13 (3)	農 業	総合実習	3 / 9 (3年次までの継続履修)	必履修	
開講年次	選択群	系 列	使 用 教 科 書 ・ 教 材		
1	な し	4分野ローテーション(造園)	総合実習テキスト		
目 標					
<ul style="list-style-type: none"> 農業の基礎・基本を農場実習を通して学び、知識と技術を身に付ける。 2、3年次の系列選択に向けて、それぞれの系列（草花、野菜、造園）に関する知識と技術を身に付ける。 庭木の特性や栽培に適した環境について学習し、経営と管理についての実践的な能力と態度を身に付ける。 					
知識及び技能		思考力、判断力、表現力	学びに向かう力、人間性		
農業を総合的に捉え体系的系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。		農業に関する総合的な課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。	農業の総合的な経営や管理につながる知識や技術が身に付くよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協動的に取り組む態度を養う。		
単元・作品名		学習 内 容	到 達 度 目 標		
前 期	マンリョウの栽培 タマリュウの栽培	・マンリョウの播種 ・タマリュウの株分け	<ul style="list-style-type: none"> 実生繁殖方法を理解し、正しい播種ができる。 タマリュウの繁殖方法を理解し、正しい株分けができる。 		
	ハウス内の環境整備		<ul style="list-style-type: none"> ハウス内の除草をすることができる。 		
	ツバキの栽培	・さし木	<ul style="list-style-type: none"> ツバキのさし木繁殖の方法、手順を理解し、正しいさし木ができる。 		
	薬剤散布 ○特別実習 当番実習	・薬剤散布の目的と方法	<ul style="list-style-type: none"> 病害虫防除方法を理解し、目的に応じて薬剤散布ができる。 		
	鉢物・盆栽の管理	・追肥と除草	<ul style="list-style-type: none"> 鉢物・盆栽の追肥と除草を正確に行うことができる。 		
	環境整備		<ul style="list-style-type: none"> 雑草が病害虫の温床になることを理解することができる。 		
後 期	鉢物・盆栽の管理	・鉢物の管理方法	<ul style="list-style-type: none"> 雑草が病害虫の温床になることを理解することができる。 		
	庭木の雪囲い	・なわの結び方 ・雪囲い ・雪吊り	<ul style="list-style-type: none"> 基本的ななわの結び方が理解でき、正しく結ぶことができる。 庭木の正しい雪囲いができる。 マツなどの雪吊りができる。 		
	庭木の根回し ○特別実習 当番実習	・根回し準備 ・溝掘り ・うめ戻し	<ul style="list-style-type: none"> 庭木の正しい根回しができる。 		
	取得可能な検定や資格				
<ul style="list-style-type: none"> 日本農業技術検定 3級 					

N O	教 科	科 目 名	単 位 数	必修・選択の別
1 3 (4)	農業	総合実習	3 / 9 (3年次までの継続修)	必履修
開講年次	選択群	系 列	使 用 教 科 書 ・ 教 材	
1	なし	4分野ローテーション(作物)	・総合実習テキスト	

目 標

- ・農業の基礎・基本を農場実習を通して学び、知識と技術を身に付ける。
- ・水稻の特性や栽培に適した環境について学習し経営と管理についての実践的な能力と態度を身に付ける。

知識及び技能	思考力、判断力、表現力	学びに向かう力、人間性
農業を総合的に捉え体系的系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	農業に関する総合的な課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。	農業の総合的な経営や管理につながる知識や技術が身に付くよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協動的に取り組む態度を養う。

単元・作品名		学習内 容	到達度 目 標
前 期	水稻の栽培	<ul style="list-style-type: none"> ・育苗管理 ・水田準備 ・田植え ・溝掘り ・病害虫防除 	<ul style="list-style-type: none"> ・播種ができる。 ・育苗期を出芽・綠化・硬化に分け、それぞれの生育期間に適する環境を理解し、健康な苗の育成ができる。 ・植え付けるのに適した圃場条件を理解し、整地することができる。 ・初期除草剤散布について、除草剤を正しくより有効に使用することができる。 ・稚苗の植え付け適期を理解し、活着の良い天候条件を選び、田植えをすることができる。 ・補植として、手植えが正しくできる。 ・水田における水管理の重要さを知り、手溝掘りができる。 ・イネの病気の症状、害虫の種類を知り、適切な農薬を選び、安全で効果的に薬剤散布ができる。
	特別実習・ 当番実習		
後 期	水稻の栽培	<ul style="list-style-type: none"> ・収穫 ・乾燥調整 ・秋起こし ・育苗準備 	<ul style="list-style-type: none"> ・収穫適期を知り、収穫作業を正しく行うことができる。 ・もみの乾燥が品質の高い米に仕上げる過程であることを理解することができる。 ・もみすり機の働きと主要部の構造について理解できる。 ・収穫後の水田整備の必要性について理解できる。 ・育苗器材の洗浄及び消毒を徹底し、育苗環境を清潔に保つことができる。 ・床土の条件を理解し、強健な苗が生育する床土を作ることができる。 ・均一な種まきができるように、正しい床土入れができる。 ・育苗期の環境条件を理解し、均一で強健な苗を育成でき、また風等に耐えるビニールハウスを作ることができる。
	特別実習 当番実習		

取得可能な検定や資格

- ・日本農業技術検定3級

N O	教 科	科 目 名	单 位 数	必修・選択の別		
14	農業	農業と情報	2	必履修		
開講年次	選択群	系 列	使 用 教 科 書 ・ 教 材			
1	なし	なし	農業と情報（実教出版） 農業クラブ農業技術検定問題集改訂版（富山県学校農業クラブ連盟） ビジネス文書実務検定模擬試験問題集基礎からの3級（実教出版）			
目 標						
社会における情報化の進展と情報の意義や役割を理解し、情報に関する知識技術を習得する。 農業情報及び環境情報を主体的に活用する能力と態度を身に付ける。 農業技術検定中級合格に必要な知識と技術を習得する。						
知識及び技能		思考力、判断力、表現力	学びに向かう力、人間性			
農業と情報について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。		農業と情報に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。	農業と情報について基礎的な知識と技術が農業の各分野で活用できるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。			
単元・項目		学習内容	到達度目標			
前 期	生活と農業の情報化	情報化社会のモラルとセキュリティ	<ul style="list-style-type: none"> 情報モラルや情報セキュリティについて認識を深め、その重要性を理解している。 			
	情報の基礎	コンピュータのしくみと利用 情報ネットワーク	<ul style="list-style-type: none"> 補助記憶装置や入力装置、出力装置などの用途についての知識を身に付けている。 情報通信ネットワークに関心をもち、それらの操作方法の習得に意欲的に取り組む態度を身に付けている。 			
	コンピュータによる情報の活用	情報のセキュリティ管理 日本語ワードプロセッサの利用 農業技術検定の練習	<ul style="list-style-type: none"> 情報のセキュリティ管理について基礎的な知識を身に付けている。 ワープロソフトの基本操作を習得し、特徴や機能に関する知識を身に付けている。 キーボード操作に慣れ、習熟している。 文書の構成や構成要素の配置について理解している。 実際に文書を作成できる。 10分で200字以上の文字を打つことができる。 			
		速度文中級の練習 通信文中級の練習	<ul style="list-style-type: none"> 15分で200字程度の案内文を作成することができる。 			
	農業情報及び森林・環境情報の活用	速度文上級の練習 通信文上級の練習 表計算ソフトの利用 プレゼンテーションソフトの利用 農業の各分野での情報の活用	<ul style="list-style-type: none"> 10分で300字以上の文字を打つことができる。 20分で250字程度の案内文を作成することができる。 表計算ソフトの基本操作を習得し、特徴や機能に関する知識を身に付けている。 プレゼンテーションソフトの基本操作を習得し、特徴や機能に関する知識を身に付けている。 農業の各分野での情報システムの活用例について理解している。 			
取得可能な検定や資格						
<ul style="list-style-type: none"> 富山県学校農業クラブ農業技術検定（ワープロ中級・上級） 日本情報処理検定協会日本語ワープロ検定試験 <p>※1級を取得すると3単位、準1級を取得すると2単位、2級・準2級を取得すると1単位の増加単位として認定される（農業情報処理を修得した場合に限る。より高い級を取得した場合、認定単位数の差を増加単位として認定する。）</p>						